



神奈川大学で長岡の企業がP R

首都圏の大学生のU・Iターンを促すため、新潟県出身者が約600人在籍する神奈川大学で業界研究セミナーを初開催。市内5社の若手社員がUターン就職の進め方や長岡で働く魅力などを学生に伝えました。(7月2日)



7.13水害の経験と教訓を忘れない

中之島地域を中心に甚大な被害をもたらした7.13水害から21年。地域住民らが献花台を訪れ、折り鶴や花を手向けました。堤防決壊時刻の午後0時52分には、災害の教訓を胸に犠牲者へ黙とうをささげました。(7月13日)

知事との懇談会 原発再稼働を巡る市民理解の促進を要望

長岡・柏崎地域の現状と課題を共有し、県と市町村との連携・協力を図るため、知事と6市町村長による懇談会が行われました。磯田市長は、柏崎刈羽原発の再稼働を巡り、市民・県民の理解が進んでいないことを指摘。知事へ住民の意向を把握することが必要と伝えました。(7月9日)

【主な意見】

- ・長岡市民をはじめとした原発から30キロ圏域の住民の思いが大切。そのために、住民の理解を深める努力をしてほしい。
- ・県民意識調査において、二者択一では再稼働の是非を十分に把握できないため、長岡市民の多様な意見を把握できる調査の実施を要望。



▲花角知事(左)と意見を交わした磯田市長(左から2番目)ら6市町村長

消費者が意見を伝えるときのポイント

- ひと呼吸、置こう
感情的な言動にならないよう、気持ちを落ち着けましょう。
- 具体的に伝えよう
言いたいこと、要求したいことを明確に、理由と一緒に丁寧に伝えましょう。
- 相手の話を最後まで聞こう
一方的に主張するだけでなく、相手の言い分や理由もしっかり聞きましょう。

誰もが気持ち良く働けるまちへ オール長岡で カスハラゼロを推進

岡コンプライアンス課 ☎39・2368



近年カスタマーハラスメント(通称・カスハラ)が増加しています。市は企業や団体と連携し、安心して働ける職場環境の確保に向けた取り組みをスタートしました。

事業者に向けて、カスハラの実態調査や対応を学ぶ勉強会などを実施します。また、消費者側にカスハラにならない意見の伝え方などを啓発するほか、市では対応の基本方針やマニュアルを策定。事業者・消費者がお互いを尊重する「カスハラゼロ」のまちを目指します。

つなぐ、平和のバトン —— 戦後80年 私たちにできること

岡庶務課 ☎39・2203

空襲を体験した世代の高齢化が進み、当時を語る人が少なくなっています。平和のバトンをつなぐために、私たちにできることは何か。世代や地域を超えたさまざまな“記憶をつなぐ”取り組みをヒントに、一緒に考えてみませんか。

学びでつなぐ

戦災の記憶を自分のかたちで

表町小学校の6年生は、平和学習で学び、感じたことを自分の発想で表現しています。ジオラマや動画、紙芝居など手法はさまざま。全校児童に作品を発表し、学校全体で平和を考えるきっかけになっています。子どもから子どもへ、戦災の記憶をつなぐ学びが生まれています。



◀空襲で焼け野原になった表町学区を再現したジオラマ(左)、空襲時にタイムスリップする動画制作



支えてつなぐ

柿川清掃で支える、大切な日



のボランティアが参加し、平和を祈る場を市民の手で支えています。

長岡青年会議所が犠牲者の慰霊と恒久平和への願いを込めて、毎年8月1日に実施している柿川灯籠流し。安全な開催に向け、事前に柿川やその周辺の清掃を行っています。約200人

記録でつなぐ

デジタルで残す空襲の記憶

12月に長岡戦災資料館のホームページをリニューアルします。同館が所蔵する空襲体験画などの資料を閲覧できるほか、空襲体験者の語りを視聴できるようになります。

空襲に関する資料を集めています

岡長岡戦災資料館 ☎36・3269

支所地域を含めた市内各地にある長岡空襲の資料などの収集・保存を行っています。お持ちの人は、同館にご連絡ください。

Interview



西田 七虹さん

他都市の取り組みに学ぶ

語り部の祖父・母と3世代で、富山大空襲の記憶を伝える富山市の高校生・西田さんに、次の世代へ記憶をつなぐためのヒントを聞きました。

“同じようには話せない。でも、伝えることはできる”

小さい頃から空襲を経験した祖父の話を聞いて育ったので、私の中では“戦争”が身近にあるのが当たり前でした。体験はしていないけれど、当時の話を聞くうちに「後世に伝えなきゃ」と自然に思うようになりました。

体験者の言葉には、その人にしか語れない重みがあります。私は同じようには話せ

ないけれど、その内容を次の世代に伝えていくことはできる。聞いてくれた人の心に何かを残せると信じています。だからこそ、まずは“話を聞く機会”をつくるのが大切。そして、感じたことをどんな形でもいいから行動に変えてほしいです。そのきっかけを、若い世代だけでなく親世代にも届けていきたいと思っています。